第２学年国語科　「大事な言葉を探して動物の秘密クイズを作ろう
～『ビーバーの大工事』『どうぶつカードを作ろう』～」

学習指導者　東　泰右

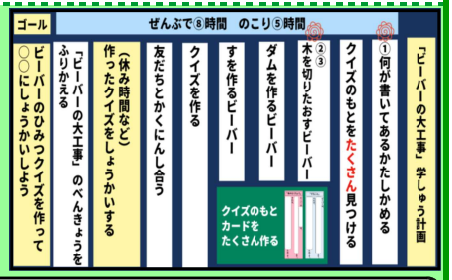
単元の概要・子供と共有した目標　自らの目標に向かう姿

ビーバーの秘密とその理由がセットになった三択クイズに出合い、「ビーバーの秘密クイズを作って紹介しよう」という単元のゴールを設定した子供たちは、教材文からビーバーの秘密とその理由を表す重要な語や文を選び出し、クイズに生かしていった。その後、他の動物でもクイズ作りに挑戦した。

見通し　問題を発見して、課題を設定する姿

学習計画を基に単元のゴールを確認し、その達成に向けて前時は、「木を切り倒すビーバー」のまとまりからクイズのもと（秘密と理由のセット）をたくさん見付けたことを板書の写真などを基に振り返った。そして、本時の学習課題を設定した。

「今日もクイズのもとをたくさん見付けたい」などと、課題解決への意欲を高める姿が見られた。



「ダムを作るビーバー」から、クイズのもとをたくさん見付けよう

行　動　諦めずに試行錯誤する姿

これまでの国語科（「読む」領域）の学習で見付けてきた読みの技（課題解決の手掛かり）が一覧になったチェックリストを一人一人の手元に用意しておき、これまでの学習を基に、課題解決のためにどの技が使えそうかを全体で確認したことで、課題解決の見通しをもてるようにした。その後、ビーバーのクイズを作るときの大事な言葉である「秘密（すること・体の特徴）」「その理由」を見付けてカードに書き、クイズの答えとなる「秘密」と、解説に使う「その理由」のつながりが適切かどうかを確かめたり、新しく秘密と理由のセットを増やしたりする時間を設定した。

チェックリストを手掛かりに、これまでの学習を想起しながら、使えそうな技を確かめる姿が見られた。

前は、「自分の体でやってみる」を使って、ビーバーのすることがよく分かったよ。

また、「大事な言葉を探す」などの読みの技を用いながら、重要な語や文を考えてカードに書いたり、秘密とその理由のつながりを確かめながらセットを増やしたりする姿が見られた。

もし１匹だけで仕事をしていたら、川の水をせき止める「立派な」ダムは作れないと思うよ。

振り返り　自らの学びを正確に捉える姿

「今日の成長を振り返ろう」と、活動の切り替わりを伝えることで、**「自分が使えた技をチェックする」**という自らの学びを正確に捉える方法を想起して、自ら振り返りができるようにした。また、単元を通して、読みの技のチェックリストを活用することで、どの技が使えたかを振り返りやすくした。

読みの技の「理由を考える」を使って秘密と理由のセットを見付けたよ。

チェックリストを基に、自分が使えた技を一つ一つ確認し、活動のどの場面でどの技を使ったかを友達と伝え合う姿が見られた。

考察（○：成果、▲：課題）

○　クイズ作りへの意欲が高まっており、重要な語や文を考えて選び出す必要感を感じていた。

○　活動の前に、どの読みの技が使えそうかを全体で確認したことで、課題解決のために読みの技を使おうとする意欲が高まっており、使えた技を適切に振り返ることができていた。

▲　方法を用いることで、自分の成長を感じられるようにすることをねらっていたが、何をもって成長と捉えるのかを具体的に共有しておく必要があった。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧いただけます。